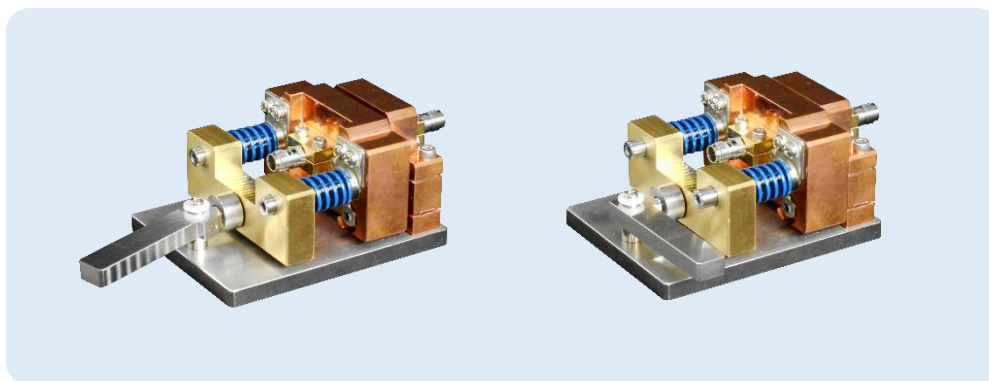


ミリ波低損失誘電体フィルム測定の設定版

- $\text{Tan } \delta$ 0.01以下の低損失誘電材料の評価に最適
- 優れた冶具構造によりミリ波帯でも簡単に再現性の良い誘電率測定を実現
- 誘電率測定ソフトによる効率的で確実な測定



5Gや自動車レーダーによってミリ波帯の材料市場は大きく変化しています。この市場で成功していくための重要なツールとして、優れた材料を精度良く評価できる測定系が必要とされています。

スプリットシリンダ共振器はこの市場要求に応え、使いやすく正確な誘電材料測定を提供します。加工が楽な平板試料を用いて、10 GHzから80 GHzまで広い周波数範囲において、簡単に再現性の良い測定を行えるようになりました。試料をバネで押さえるため、作業者が変わっても測定結果に影響はありません。

システム構成例

- Keysight StreamlineシリーズUSBネットワーク・アナライザ P5007A (44 GHz)
- スプリットシリンダ用誘電率測定ソフトウェア CR-MA
- 2.4 mm テストケーブル
- スプリットシリンダ共振器 40 GHz CR-740
- Windows 10 PC

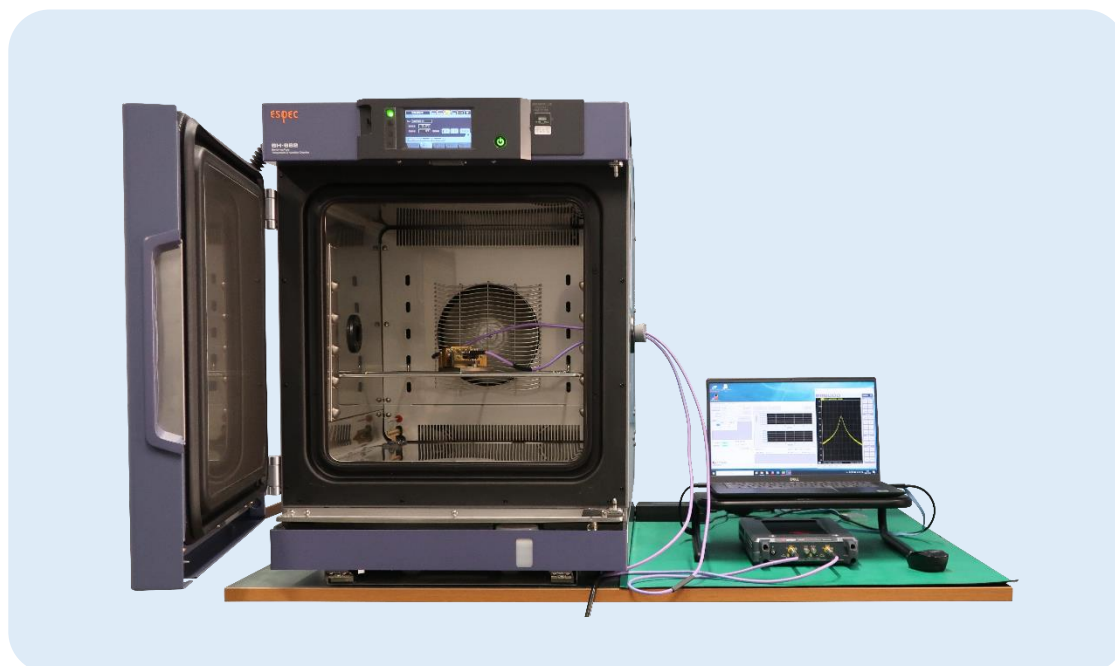
製品ラインナップ

型番	品名	共振モード	Q値 (無負荷)	接続用コネクタ
CR-710	スプリットシリンダ共振器 10 GHz	TE011	20,000以上	2.92 mm (f)
CR-720	スプリットシリンダ共振器 20 GHz		14,000以上	
CR-724	スプリットシリンダ共振器 24 GHz			
CR-728	スプリットシリンダ共振器 28 GHz			
CR-735	スプリットシリンダ共振器 35 GHz			
CR-740	スプリットシリンダ共振器 40 GHz		7,000以上	2.4 mm (f)
CR-750	スプリットシリンダ共振器 50 GHz		6,000以上	1.85 mm (f)
CR-760	スプリットシリンダ共振器 60 GHz			1 mm (f)
CR-780	スプリットシリンダ共振器 80 GHz			

誘電率温度特性評価システム **New!**

- 10～40 GHzのスプリットシリンダを使用して -50℃～150℃の範囲で評価可能
- 測定条件を入力すれば、あとはPCがアナライザと環境試験器を制御して自動測定
- 初めてでも結果が出せる、温特測定ノウハウをつぎ込んだハードとソフト

材料に対する性能要求が厳しくなることにともない、実動作状態での性能確認がますます重要になっています。その一方で、広い温度範囲で信頼性の高い誘電率評価を行うことは非常に困難でした。50種類以上のサンプル評価を通して得られた測定ノウハウをつぎ込んで、装置導入後すぐに有用な結果が出せるシステムを開発しました。



システム例 注意：標準のスプリットシリンダは使用できません。（アップグレード可能です。）

- Keysight StreamlineシリーズUSBネットワーク・アナライザ P5007A (44 GHz)
- スプリットシリンダ温特評価ソフトウェア CR-TC
- 温特システム用同軸ケーブルセット CR-TC-CB
- スプリットシリンダ共振器 40 GHz 温特対応 CR-740-TC
- Windows 10 PC
- エスペック社 環境試験器 SH-662

製品ラインナップ

型番	品名	共振モード	Q値（無負荷）	接続用コネクタ
CR-710-TC	スプリットシリンダ共振器 10 GHz 温特対応	TE011	20,000以上	2.92 mm (f)
CR-720-TC	スプリットシリンダ共振器 20 GHz 温特対応		14,000以上	
CR-724-TC	スプリットシリンダ共振器 24 GHz 温特対応			
CR-728-TC	スプリットシリンダ共振器 28 GHz 温特対応			
CR-735-TC	スプリットシリンダ共振器 35 GHz 温特対応			
CR-740-TC	スプリットシリンダ共振器 40 GHz 温特対応			